

# 200名超の参加者、勇気をもらいました！

## 樋口英明さん講演会

6月23日13:30～15:30

ホルトホール大会議室

「わたしが大飯原発をとめた理由」(文責 森山賢太郎)

「破られた判決の中身についてしゃべる元裁判官を見るのは皆さん初めてでしょう」(会場 笑い)と切り出して樋口さんは話しはじめました。

講演の最後では、「自分は裁判官としての責務を果たした。私の話を聞いた皆さんはその責務を果たしてほしい」と投げかけられました。私たちは原発をとめるために勇気を持たねばならないし、自信をもって取り組みなさいということでしょう。

3.11以降で地震を理由に原発をとめたのは樋口さんと山本善彦裁判長の2人(17人中)だけ、2対15とのこと。しかしその違いはどこから出てくるのか、樋口さんは「原発は心底危険だ、だからとめた」と淡々と言われます。

最悪といわれる福島原発事故。4号機では使用済み核燃料プールの水(冷却機能をもつ)が、奇跡的に抜け落ちなくて済んだ。2号機では格納容器の圧力が高くなりすぎて、ベント(圧力を抜くこと)がうまくいかなかったが、どこからか圧力が抜け出て破裂を免れた。当時の菅直人総理、近藤俊介原子力委員長、吉田昌郎福島第1原発所長らは東日本壊滅を覚悟したが、それを免れた。原発は国を滅ぼしうる、しかし幸運が重なってそうならなかった。

樋口さんはホワイトボードと持参された図表を使って説明されました。表1「2000年以後のおもな地震」では1000ガルを超える地震がずらりと並ぶ。\*印住宅メーカーの三井ホームは5115ガル、住友林業は3406ガルに耐える耐震住宅だとテレビで宣伝している。

「ところで伊方原発の設計基準は650ガルですね」と淡々と言

表1  
2000年以降の主な地震

*5115ガル(三井ホームの耐震基準)
★4022ガル(岩手宮城内陸地震・2008年・M7.2)
*3406ガル(住友林業の耐震基準)
★2933ガル(東日本・2011年・M9)
★2515ガル(中越・2004年・M6.8)
★1796ガル(北海道胆振東部・2018年・M6.7)
★1740ガル(熊本・2016年・M7.3)
★1584ガル(鳥取県西部・2000年・M7.3)
★1571ガル(宮城県沖・2003年・M6.4)
★1494ガル(鳥取県中部・2016年・M6.6)
★1300ガル(栃木県北部・2013年・M6.3)
★806ガル(大阪北部・2018年・M6.1)
★703ガル(伊豆・2009年・M5.1)
*700ガル(大飯原発の3.11当時の耐震基準)
*405ガル(大飯原発の建設当時の耐震基準)
*650ガル(伊方3号機の現在の耐震基準)

われる。私たちはショックを受ける。

表2に「震度、ガル(最大加速度)の対応表」を示します。震度の表示だけでは細かいことはわかりません。1995年阪神淡路大震災のあとからガルで表すようになった。

\*印の三井ホーム

は震度7の地震に60回耐えた。この20年間で発生した地震は700ガル以上29回、1000ガル以上16回。450ガル以上は数えきれません。

住宅メーカーは何十回も模型を使った実験をやっているが原発ではそれができない。電力会社はコンピューターによるシミュレーション、机上の空論をやっている。原発容認派は「住宅メーカーの数値と地震のガルを並べてはいけません」「並べられたら困る」ので私はあえて並べるのです。(彼らは地表と地下の違いを言うが、あまり違わないのです、それは証明できています)

### 強震動予測について

こんなひどい耐震設計の原発が「許されるための理屈」それが「強震動予測」という学問です。

この学問に基づき、「大飯原発には当初405ガル以上は来ない」、後には「700ガル以上は来ない」と関西電力は言っていました。原発の敷地には来ない、というのです。専門家自身がこれについて次のように言っています。地震科学は3重苦である。「観測できない」「実験できない」「資料がない」、従って科学ではなく「仮説」にすぎないと。

講演後、樋口さんは約30分間、次々に出る参加者の質問に真剣に答えてくれました(内容略)。

表2 震度、ガル(最大加速度)の対応表

震度等級	最大加速度(ガル)
震度4	40～110ガル程度
震度5弱	110～240ガル程度
震度5強	240～520ガル程度
震度6弱	520～830ガル程度
震度6強	830～1500ガル程度
震度7	1500ガル程度以上～

(国土交通省国土技術政策総合研究所)